

傷寒・金匱方劑解説 156 そー3

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
	傷寒論・金匱要略条文	読み および解説・その他
そー3	走馬湯 (外台)	<p>巴豆 (辛温) 2個皮心を去って熬る・杏仁 (甘温) 2個 上の2味を布を以って包み、上から槌にて打ち砕き、熱湯40m1の中に入れて、捻って軽くしぼり、白い汁を取ってこれを飲ませる。老人および小児は薬量を加減する。</p> <p>また飛戸鬼撃の病を治す。</p>
腹満寒疝宿食病脈証併治第十第24条 (金匱要略)		
<p>「外台、走馬湯、中^{ちゅうお}悪心痛腹^{ふくちよう}脹、大便不通を治す。」</p>		
<p>解説 外台の走馬湯は、毒に当たった様に、心下部が痛み、腹が張って苦しく、大便の出ない者を治す。 巴豆で悪物を吐下せしめ、杏仁で悪物を下す。</p>		
<p>「方劑決定のコツ」の注釈</p>		
<p>「中悪心痛」とは、悪い物に当たって、心が痛み、腹が張ってポンポンに腫れて、大便が通じないものをいう。</p>		
<p>「飛戸鬼撃の病を治す」とは、飛戸は、急に気絶して死んだ様になることを言い、鬼撃の病は、不意に、鬼の様な、眼に見えないものに打たれた様に痛み苦しむ病のことを言うから、原因不明の病で、腹などが張って痛み苦しみ、大便が出ない者を治すのである。</p>		
<p>走馬湯証</p>		
<p>新古方薬囊によれば「不消化物の食べ過ぎ、或は冷水の呑み過ぎ、又は中毒、又は喰ひ合わせ、又は腹を急に冷やしたり等したるために、みぞおちの下、又は腹などが大いに痛み、心下部から腹にかけて大いに張りて苦しみ、大便出でざる者を治す。」と記されている。</p>		